

子々孫々に幸せな暮らしをつなぐ理想郷・梼原へ 「森林づくりは人づくり」

ゆすはら

梼原町役場 森林の文化創造推進課 立道 斉

雲の上のまち梼原

梼原町は高知

県の西北部に位置し、四国カルストの麓にある、町面積の91パーセントが森林の町です。

人口は約3300人。町の北側と



森林の面積91% (町の中心地)

西側が愛媛県に接し、伊予と土佐を結ぶ街道の町でもあります。かつては、大型バスの乗り入れができないほど曲がりくねった急峻な道が続き、高知市まで車で数時間もかかり、「梼原の人」と言えば、とても不便なところから来た人と評される地域でした。現在、道路の改良が進み、松山市・高知市まで90分程になりました。

こうした地理的な要因から、自分たちのことは自分たちで、地域のことは地域で、町のことは町で担っていくという、高い自治意識が風土と文化として醸成されています。

町史には、明治期に「不要公課計画」を掲げて積極的に植林に取り組み、その収益をもって公共的な費用を捻出する、公課のいらぬ理想郷づくりに取り組んだとの記述が残されています。

持続可能で豊かな森林づくりへ

「昔は、数字のことは言わなかった」。現場で出会った林業家の方の言葉です。経済優先、効率優先のなかで、いつから森林は原木生産の場のみになったのかと考えさせられました。そして同時に、祈りや感謝、思いやりという大切にすべき基本を失ってきたのではないだろうか。森林の再生がクローズアップされる中で、私たちが自然とともにある生き方を考え、改めて自分の中にある人間性を取り戻していくことが必要なのかもしれません。もともと森林を身近なものに、そして、森林本来の価値を正しく取り戻すために、令和2年4月、本町に国・県企業・森林組合の出向者を迎え、新たに「森林の文化創造推進課」を設置。地域の林業関係者の皆さんと協議を重ね、改めて森林と向き合い、令和の森林づくりとして「森林の価値の再定義」を掲げ、取り組みをスタートしました。

動き出した森林づくり

令和2年6月、町が各事業体と呼びかけ、持続可能な森林づくりに向けて、林業の活性化、林業従事者の確保・育成を目的とし、林業事業体や建設会社などの有志により「梼原令和の森林づくり協議会『ReMORI』」が発

足。ReMORIでは、地域おこし協力隊を3年間雇用し、会員の事業体で研修を行い、令和7年までに20名の育成を目指しています。

これまで、林業の担い手育成は各事業体それぞれが独自に行っており、募集情報の発信ができないなど、希望者とのマッチング自体が難しい状況となっていました。また、林業技術の習得には、様々な資格が必要となることや経験値が求められ、費用と時間が必要となります。そうした背景から、新規就業者の定着率の低さも大きな課題となっていました。

現在、町内の林業従事者の半数が60歳以上となっており、持続可能な森林づくりを行ううえで、担い手の確保は急務となっています。

10年後、20年後の未来を見据えた時に、町として、もう一歩踏み込んだ取り組みが必要との考えから、令和元年12月に、事業体有志の皆さんと「未来の森林づくりにむけての意見交換会」を開催。会の中で、「先人の皆さんから受け継いだ森林を生かすこと」



協力隊研修風景 (ひと休み) ©Taisuke tsurui



著者:前列左

©Taisuke tsurui

立ち上がった若者たち

「担い手を育成していくこと」について積極的な意見が出されました。「林業を担う方を確保することは難しい」という見方が大半を占めるなか、森林と町との懸け橋となり「担い手を受け入れ、育成する仕組み」が必要との結論に達し、ReMORI発足へとつながりました。令和2年7月には、第1号となる協力隊を雇用し、現在は、伐採搬出する作業に加えて、植えて育てる造林作業へと研修の幅を広げています。

事業体の皆さんは、この豊かな森林を資源として、梶原に定住してもらいたいと言います。つまり、梶原の未来を担っていただく人づくりに貢献したいのだと。

令和2年9月、若手林業家有志7名により、林業技術の向上と交流を目的とする梶原町森林づくり若手研究会「CoMORI」が発足。普段は別々の事業体で仕事をしている会員が、職場の垣根を越えて、週末に集まり、住宅裏の危険木の伐採を請け負うなどの活動を行っています。また、こうした特殊な伐採を安全に行うため、ロープを使って木に登る技術の習得にも挑戦。町の太郎川公園でイベントを開催し、子どもたちに木登り体験の場を提供するなど、林業技術をレクリエーションに活用し、活動の幅を広げています。

とも、公私ともによき関係を築いてくれており、地域における若者の居場所と出番づくりの場へとつながっています。

梶原森林づくり大学構想

CoMORIが設立され、ひた向きに森林作業に打ち込み、地域への貢献に取り組み若者の姿は人づくりであることを実感するとともに、こう



梶原森林づくり大学構想



CoMORI活動（地域の方と）

した取組みを通じて、林業の担い手の育成と若者の居場所と出番づくりに取り組んでいくことが必要であると考えます。

そこで、ReMORIによる伐倒・造林技術の研修に加え、特殊伐採の技術、ICT等による森林づくり活動などを学び合い高め合うことができる仕組み「梶原森林づくり大学構想」を令和3年4月にスタートしました。

この取組みは、地域の林業関係者や地域おこし協力隊に加え、大学等の研究機関、町外の先進事業者や環境先進企業の皆様とともに森林づくりについて考え、学び、実践することを目的とし、「技術者の育成」「人財の保存」「技術の継承」を図ろうとするものです。

先人から託された本町の豊かな森林を、人づくりと交流の拠点として、次世代に託せるよう取り組みます。

誰もが森林の恩恵を享受できる社会へ

森林の再生を果たしていく中で、既存の枠組みを超えた新しい林業、森林づくりへの挑戦が求められています。

世界は、afterコロナの時代へと変化を求められており、こうした時代であるからこそ森林とともに生きてきた森林の民として、森林の多様な価値をしつかりと発揮させ、林業の持続的な発展に取り組むことで、子々孫々に幸せな暮らしをつなぐ理想郷・梶原を築いていきたいと思っています。

昭和20年から30年にかけて植えられ立派に成長した梶原の森林に、苗木と鋤を担ぎ、道なき道を登った先人の姿を感じながら。